

資料 4. 福岡大学病院産婦人科専門研修施設群

福岡大学病院産婦人科研修施設群研修施設

各研修病院における手術件数と分娩数(平成 28 年 1 月～12 月)

		病院	総手術 件数	婦人科 手術	子宮内容 除去術	腹腔鏡下 手術	分娩数	帝切術
基幹施設	□	福岡大学病院	676	419	13	150	511	257
		愛媛県立中央病院	871	450	104	202	1253	421
連携施設	}	総合病院 山口赤十字病院	559	306	39	60	661	210
		医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院	674	393	51	0	516	230
		国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	1100	10	80	15	2200	800
		大分大学医学部附属病院	505	416	45	133	157	80
		健保連大阪中央病院	754	754	0	754	0	0
		医療法人天信会 あまがせ産婦人科	1301	12	76	0	800	82

各教育研修病院における研修体制

病院	生殖内分泌	婦人科腫瘍	周産期	女性のヘルスケア
福岡大学病院	○	◎	◎	◎
北九州市立 医療センター	×	◎	◎	◎
県立宮崎病院	×	◎	◎	△
医療法人 原三信病院	○	×	◎	◎
愛媛県立中央病院	○	◎	◎	◎
国立病院機構指宿医療センター	○	◎	△	◎
福岡赤十字病院	○	◎	◎	◎
国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院	○	◎	◎	◎
総合病院 山口赤十字病院	○	◎	◎	◎
福岡山王病院	◎	◎	◎	◎
国立病院機構九州医療センター	○	◎	◎	◎
医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院	×	△	△	△

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	◎	◎	△	◎
大分大学医学部附属病院	◎	◎	◎	◎
国家公務員共済組合連合会 浜の町病院	◎	◎	◎	◎
田川市立病院	○	◎	◎	◎
地域医療機能推進機構(JCHO)九州病院	○	◎	◎	◎
健保連大阪中央病院	○	×	◎	◎
松山赤十字病院	○	◎	◎	◎
済生会福岡総合病院	○	○	◎	◎
医療法人天信会 あまがせ産婦人科	○	◎	◎	◎
福岡市立こども病院	×	◎	×	◎
国立病院機構 別府医療センター	○	◎	△	△
鳥取大学医学部附属病院	◎	◎	◎	◎
医療法人社団 尚蘇会 エンゼル病院	○	◎	△	◎

各研修病院での専攻医指導に関する研修可能性を4段階(◎、○、△、×)に評価した。

1) 基幹施設

福岡大学病院

指導医	宮本 新吾、城田 京子、宮原 大輔、村田 将春
疾患の比率	腫瘍 30%, 周産期 50%, 内分泌 20%
医師数	常勤 : 18 名 非常勤 : 1 名 計 : 19 名
病床・患者数	病床数 56 床 婦人科 32 床 産科 18 床 MFICU 6 床 婦人科手術約 500 件/年 腹式手術件数 190 件/年 婦人科悪性腫瘍(浸潤癌のみ)診療実数 50 件/年 分娩約 510 例/年 (帝王切開を含む) 母体搬送 170 件/年 外来患者総数約 20,000 名/年 (延べ) (新患者数 約 1,800 名/年)

<p>病院の特徴</p>	<p>当科では、周産期、生殖内分泌、女性ヘルスケア、婦人科腫瘍のどの診療領域においても高度の医療が提供出来る診療体制で臨んでいます。</p> <p>周産期領域では、母体・胎児集中治療室（MFIUCU）および新生児集中治療室（NICU）を整備した総合周産期母子医療センターとして福岡県からの指定を受け、母体や胎児・新生児異常に対して一貫した治療を行うとともに、妊娠・分娩・産褥期の母体の救急医療などにも、24時間体制で対応しています。</p> <p>生殖内分泌領域では、一般不妊治療をはじめとして、子宮内膜症や子宮筋腫の治療にも内視鏡や腹腔鏡などの高度な医療技術を活用して高いQOL（生活の質）を確保した治療を行っています。</p> <p>女性ヘルスケア領域では、ホルモン補充療法や漢方療法などにより不定愁訴の改善やアンチエイジングを目指して専門外来で治療しています。婦人科腫瘍領域では、子宮癌や卵巣癌などの手術、放射線、化学療法を組み合わせた集学的治療を行っています。</p> <p>また、急性腹症である子宮外妊娠・卵巣出血・卵巣腫瘍捻捻転症などを含めた救急医療に対しても周産期領域と同様に24時間体制で対応しています。</p>
<p>研修の特徴</p>	<p>生殖医療専門医 2名、周産期専門医 1名、超音波専門医 1名、婦人科腫瘍専門医 2名、内視鏡技術認定医 1名および細胞診専門医 1名が在籍しており、産婦人科サブスペシャリティの幅広い研修が可能な施設であります。</p>
<p>臨床研修の内容</p>	<p>専攻医研修 1年目 産婦人科専門医の指導のもと、入院患者の病棟主治医として、ハイリスク妊婦の管理、正常分娩、帝王切開ならびに婦人科基本術式の助手、執刀を行う。</p> <p>専攻医研修 2-3年目 1年目の内容に加え指導医のもと、婦人科外来及び妊婦健診、産後外来を担当し産婦人科医の基本的な診察や手技を習得する。</p> <p>研究活動</p>

	カンファレンスでの症例提示、学会発表、論文執筆、投稿を行う。
専門研修プログラム 連携施設担当者	城田 京子

2) 連携施設

1. 愛媛県立中央病院

指導医	越智博 近藤祐司 阿部恵美子 松尾環 小塚良哲 池田朋子 上野繁 河邊麗美
疾患の比率	腫瘍 35%, 周産期 55%, 内分泌 10%
医師数	常勤 : 8 名 非常勤 : 3 名 計 : 11 名
病床・患者数	病床数 60 床 婦人科 15 床 産科 45 床 MFICU9 床 NICU15 床 新生児 30 床 婦人科手術約 395 件/年 婦人科良性腫瘍手術件数 365 件/年 婦人科悪性腫瘍(浸潤癌のみ)診療実数 20 件/年 分娩 1214 例/年(帝王切開を含む) 母体搬送 220 件/年 外来患者総数約 21025 名/年
病院の特徴	総合周産期母子医療センターを運営しており、愛媛県全域のハイリスク妊娠を受け入れており、症例が豊富であり、高度周産期医療を提供しています。臨県からのヘリ搬送も受け入れています。 婦人科手術についても腹腔鏡下手術を中心に多数の症例の手術を行っています。 また、悪性腫瘍についても手術、外来化学療法、入院化学療法について経験することができます。

研修の特徴	産科症例についても、婦人科症例についても、専門家による手厚い指導にて研修することができます。 特に、周産期医療および腹腔鏡手術について豊富な症例を経験することができます。
臨床研修の内容	指導医とともに様々な領域の疾患の患者を担当し、産婦人科診療に必要な基本的な姿勢、技術を身につける。帝王切開や単純子宮全摘術など基本術式の第1助手を担当し、臨床技術の進歩にともない執刀についても指導医による指導を受ける。腹腔鏡下手術についても同様である。 研究活動については、カンファレンスでの症例提示や、学会発表、論文執筆・投稿を行う。
単年度専攻医 受け入れ可能人数	3名
専門研修プログラム 連携施設担当者	越智 博

2. 総合病院 山口赤十字病院（総合型専攻医指導施設）

指導医	金森康展、申神正子、月原 悟、西村典子、ウロブレスキ順子
疾患の比率	腫瘍 30%, 周産期 60%, 内分泌 10%
医師数	常勤医 : 6名
病床・患者数	総病床数 475 床 産科 33 床 MFICU0 床 NICU9 床 GCU6 床 婦人科 16 床 婦人科手術約 300 件/年 婦人科悪性腫瘍(浸潤癌のみ)約 40 件/年 分娩約 650 例/年(帝王切開を含む) 母体搬送約 100 件/年
病院の特徴	地域周産期センターのため緊急母体搬送ハイリスク妊娠・分娩症例が多く、産婦人科総合型専攻医指導施設に加え、周産期（母体・胎児）専門医基幹研修施設、超音波専門医研修施設、がん治療認定医機構認定研修施設、婦人科腫瘍専門医指定修練施設です。
研修の特徴	周産期では妊婦健診から産後健診まで主治医として責任を持って管理します。婦人科疾患は経験豊富な指導医の指導のもと良性から

	悪性まであらゆる疾患の診断、治療を担当します。
臨床研修の内容	帝王切開や単純子宮全摘術など基本術式は指導医のもと執刀します。カンファレンスでの症例提示や抄読会発表に加えて、学会発表、論文執筆・投稿をサポートします。
単年度専攻医 受け入れ可能人数	2名
専門研修プログラム連携施設担当者	金森康展

3. 独立行政法人成育医療研究センター病院 周産期母性診療センター

指導医	左合治彦
疾患の比率	産科 58%, 新生児科 20%, 生殖内分泌 10%, 母性内科 10%, 婦人科 2%
医師数	常勤 : 55 名 非常勤 : 0 名 合計 : 55 名
病床・患者数	病床数 産科/生殖内分泌/母性内科 120 床 MFICU6 床, NICU21 床, GCU30 床, 婦人科手術約 10 件/年 分娩約 2,000 例/年(帝王切開を含む) 母体搬送 80 件/年 外来患者総数約 50,000 名/年(延べ)
病院の特徴	全国有数の産科・小児科総合病院。 周産期母性診療センターは産科・胎児診療科・不育診療科・不妊診療科・新生児科・母性内科・産科麻酔科・婦人科より構成され、それぞれ全国有数の症例数を誇っている。総合周産期センターとして地域に基づく医療を展開するだけでなく、ハイリスク妊娠管理・胎児治療などの先進的医療を行っている。特に分娩数は都内有数の症

	例数を誇り、胎児治療は日本有数の症例を有する。
研修の特徴	多くの産科症例を経験できる一方、本センターでしか経験できない先進的胎児治療を経験できる。様々な分野の専門家医師が在籍しており、ハイレベルな教育・指導を経験することができる。
臨床研修の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研修 分娩管理(正常分娩・器械分娩・帝王切開) 合併症妊娠管理 産科合併症管理 ・ 研究活動 カンファレンス・抄読会・勉強会発表 臨床統計・統計処理 学会発表・論文化
単年度専攻医 受け入れ可能人数	2名
専門研修プログラム連携施設担当者	梅原永能

4. 大分大学医学部附属病院

指導医	檜原久司・河野康志・西田正和
疾患の比率	腫瘍 33%,周産期 33%,内分泌 33%
医師数	常勤 : 11名 非常勤 : 6名 計 : 17名
病床・患者数	<p>病床数 産婦人科 36床</p> <p>MFICU 0床 NICU 6床 新生児治療室 6床</p> <p>婦人科手術約 420件/年</p> <p>婦人科良性腫瘍手術件数 370件/年</p> <p>婦人科悪性腫瘍(浸潤癌のみ)診療実数 95件/年</p> <p>分娩約 150例/年(帝王切開を含む)</p> <p>母体搬送 30件/年</p> <p>外来患者総数約 11,000名/年</p>
病院の特徴	各種産婦人科疾患の治療が行える。サブスペシャリティである日本

	生殖医学会専門医も取得可能な施設です。
研修の特徴	不妊、内分泌領域の疾患が豊富であり、専門家による手厚い指導により研修することができます
臨床研修の内容	専攻医研修 1 年目 指導医とともに不妊（体外受精等）・内分泌領域の症例を担当し、かつ産婦人科診療に必要な基本的な知識や技術を身につける。腹腔鏡下手術などの第 1 助手を担当する。 研究活動 学会発表、論文執筆・投稿を行う。
単年度専攻医 受け入れ可能人数	3 名
専門研修プログラム連携施設担当者	檜原久司

5. 鳥取大学医学部附属病院

指導医	原田 省、板持広明、谷口文紀 大石徹郎、島田宗昭、佐藤慎也 出浦伊万里、原田 崇、佐藤誠也 経遠孝子、荒田和也、野中道子
疾患の比率	腫瘍 30%, 周産期 40%, 内分泌 30%
医師数	常勤 : 20 名 非常勤 : 4 名 計 : 24 名
病床・患者数	病床数 42 床 婦人科 21 床 産科 14 床 MFICU 6 床 NICU 12 床 新生児 15 床 婦人科手術約 500 件/年 婦人科良性腫瘍手術件数 300 件/年 婦人科悪性腫瘍(浸潤癌のみ)診療実数 70 件/年 分娩約 350 例/年 (帝王切開を含む) 母体搬送 50 件/年

	<p>外来患者総数約 24,000 名/年 (延べ)</p> <p>(新患者数 約 900 名/年)</p>
病院の特徴	<p>生殖医療専門医 2 名、周産期専門医 2 名、超音波専門医 1 名、婦人科腫瘍専門医 4 名、内視鏡技術認定医 3 名および細胞診専門医 5 名が在籍しており、産婦人科サブスペシャリティの幅広い研修が可能な施設であります。</p>
研修の特徴	<p>周産期医療は県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠の管理・治療を行っており、超音波検査をはじめ高度な周産期医療の研修が可能である。</p> <p>婦人科良性腫瘍手術の約 90% は腹腔鏡手術であり、教室独自の修練カリキュラムに則り、ボックストレーニングによる基本手技習得、段階的な症例経験により内視鏡技術認定医取得を目指す研修が可能である。</p> <p>婦人科悪性腫瘍の診療は、解剖学に基づく系統的な手術手技の研修に加え、化学療法、放射線療法および緩和医療など婦人科悪性腫瘍に関する包括的な技術・知識の修得が可能である。平成 26 年 9 月より、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）の保険診療施設条件を満たしたことから、婦人科悪性腫瘍手術に対する腹腔鏡手術の研修も可能となった。</p> <p>以上のことから、各領域の専門医による手厚い指導にて研修することができます。</p>
臨床研修の内容	<p>専攻医研修 1 年目</p> <p>指導医の指導のもと、周産期・生殖内分泌・婦人科悪性腫瘍等の疾患患者さんを担当し、産婦人科診療に必要な基本的な姿勢、知識および技術を身につける。</p> <p>帝王切開や単純子宮全摘術など産婦人科基本術式の執刀あるいは第 1/2 助手を担当する。</p> <p>研究活動</p> <p>術前症例検討会における症例提示、各専門領域のカンファレンスおよび抄読会発表に加え、学会発表、論文（症例報告・原著）執筆・投稿を行う。</p>